江東区　中小企業の景況

令和７年度第３四半期
発 行 元：江東区地域振興部経済課
調査機関：（一社）東京都信用金庫協会

【調査の概要】

●調査時期・・・・・・・・・・　令和７年 10 月～12 月期を対象に令和７年 12 月上旬に実施
●調査方法・・・・・・・・・・　面接聴取調査
●調査の回収状況・・・・・・　有効回収率 93.6%

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製　造　業	100	94
卸　売　業	24	22
小　売　業	36	35
サービス業	31	28
合　　計	191	179

業況（△12.4→△14.1）は前期並、サービス業はやや悪化。
～製造業で-1.2ポイント、卸売業で-1.8ポイント、
小売業で0.4ポイント、サービス業で-5.1ポイント～

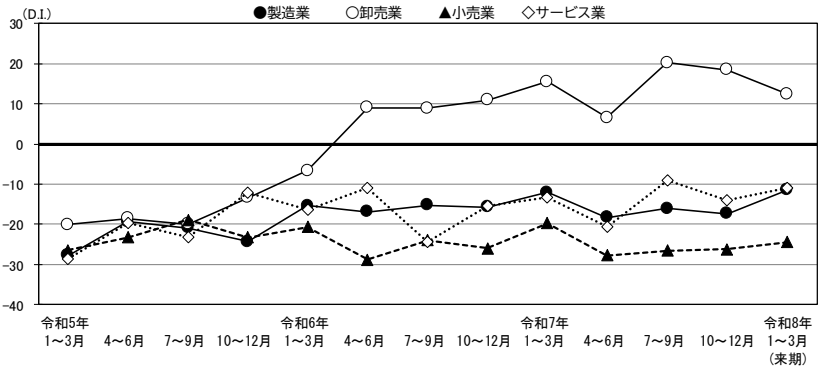
業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は-14.1（前期は-12.4）と前期並となった。業種別に見ると、製造業で-1.2ポイント、卸売業で-1.8ポイント、小売業で0.4ポイント、サービス業で-5.1ポイントとなり、サービス業はやや悪化し、他の業種は前期並で推移した。

来期の業況判断DIは、やや改善すると予想している。業種別に見ると、製造業は大きく上向き、卸売業はかなり厳しさを増し、小売業は今期並、サービス業は多少良化すると見込んでいる。

●各業種別業況の動き

	前期	今期	前記からの増減	来期予想	今期からの増減
製　造　業	-16.1	-17.3	-1.2	-11.5	5.8
卸　売　業	20.3	18.5	-1.8	12.5	-6.0
小　売　業	-26.6	-26.2	0.4	-24.4	1.8
サービス業	-9.0	-14.1	-5.1	-10.9	3.2
総　　合	-12.4	-14.1	-1.7	-11.0	3.1

※前期（令和７年７～９月）　来期（令和８年１～３月）
※「総合」は上記の４業種での D.I 値



●各業種別の今期の特徴と来期の予測

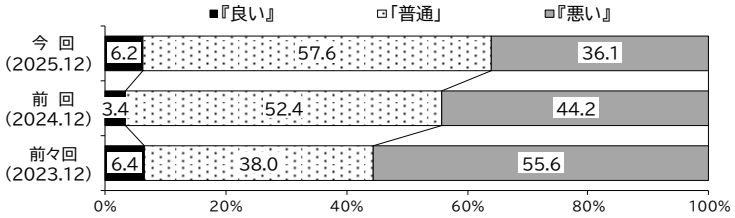
製造業	業況は前期から横這いとなった。売上額、収益は前期並で推移し、受注残はわずかに減少となった。価格面では、販売価格と原材料価格がやや下降した。原材料在庫は若干品薄感が強まった。 来期の業況は大幅に好調感が強まると予想している。売上額、受注残はやや増加し、収益は幾分増益になると見込まれている。販売価格はわずかに上昇し、原材料価格は今期並で推移すると予想している。
卸売業	業況は前期から変化なく推移した。売上額は大幅に減少し、収益はわずかに減益となった。価格面では、販売価格、仕入価格は大幅に上昇した。在庫数量は前期並の過剰感となった。 来期の業況は大きく今期を下回ると予想している。売上額は大幅に減少するが、収益は横這いになると見込んでいる。販売価格、仕入価格は大きく下降すると予想している。
小売業	業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額は横這い、収益はやや増益となった。価格面では、販売価格、仕入価格は大幅に上昇した。在庫数量はわずかに過剰となり、適正水準から在庫が積み増した。 来期の業況は今回並の厳しさが続くと見込まれている。売上額と収益は変化なく推移すると予想している。販売価格、仕入価格は幾分下降すると見込まれている。
サービス業	業況は前期からかなり悪化した。売上額はわずかに減少し、収益は大幅に減益となった。価格面では、料金価格は前期並で推移し、材料価格は若干上昇した。 来期の業況は多少好調感が増すと見込まれている。売上額はやや減少し、収益は今期並になると予想している。料金価格、材料価格はわずかに下降すると見込まれている。

特別調査　「2026年（令和8年）の経営見通し」

本調査結果の特徴	① 2026年（令和8年）の日本の景気見通し	『良い』6.2%（前年度3.4%）『悪い』36.1%（前年度44.2%）
	② 2026年の自社の業況（景気）見通し	『良い』4.1%（前年度6.3%）『悪い』32.4%（前年度27.7%）
	③ 2026年の売上額の対前年度比伸び率	『増加』13.6%（前年度10.2%）『減少』22.0%（前年度16.0%）
	④ 自社の業況が上向く転換点の見通し	『短期』28.2%（前年度31.1%）『中期』23.0%（前年度23.3%） 『長期』48.7%（前年度45.6%）
	⑤ 紙の手形・小切手の利用状況と現在の決済手段	『紙の手形・小切手を使っている』32.9%　主な理由：「取引先との慣行で使わざるを得ない」15.2% 『紙の手形・小切手をやめた』24.1%　現在の主な資金決済手段：「でんさい」14.7%「IB」9.4% 『そもそも使っていない』42.9%

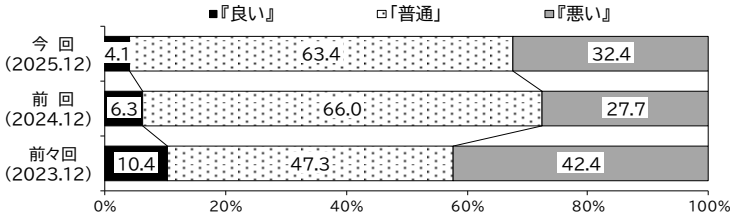
①2026 年（令和 8 年）の日本の景気見通し

足元の日本経済が緩やかに回復していることから『良い』と回答した割合は 6.2%となり、前年度調査の 3.4%より 2.8 ポイント増加となった。一方、『悪い』と回答した企業は 36.1%と、前年度調査の 44.2%より 8.1 ポイントの減少となった。



②2026 年の自社の業況（景気）見通し

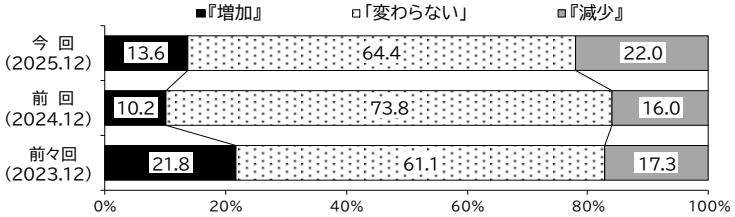
『良い』と回答した企業は全体の 4.1%で前年度調査の 6.3%より 2.2 ポイント減少した。一方、『悪い』と回答した企業は 32.4%で前年度調査の 27.7%より 4.7 ポイント増加し、「普通」と回答した企業は 63.4%で前年調査の 66.0%より 2.6 ポイントの減少となった。



③2026 年の売上額の対前年度比伸び率

『増加』を予想している企業が 13.6%と前年度調査の 10.2%より 3.4 ポイント増加した。一方、『減少』を予想している企業は 22.0%となり、前年度調査の 16.0%より 6.0 ポイントの増加となっている。

また、「変わらない」とした企業は 64.4%で前年度調査の 73.8%より 9.4 ポイントの減少となっている。

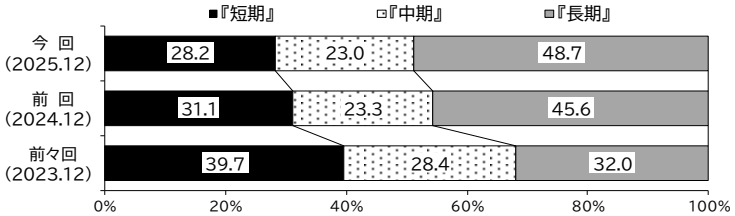


④自社の業況が上向く転換点の見通し

『短期』で上向くと予想した企業は 28.2%で前年度調査の 31.1%から 2.9 ポイント減少した。内訳は「すでに上向いている」14.1%（対前年度 2.4 ポイント減）、「1年後」9.4%（対前年度調査 1.8 ポイント減）、「6 ヶ月以内」4.7%（対前年度調査 1.3 ポイント増）であった。

また、2 年後、3 年後の『中期』とみる企業は 23.0%と前年度調査の 23.3%より 0.3 ポイント減少した。

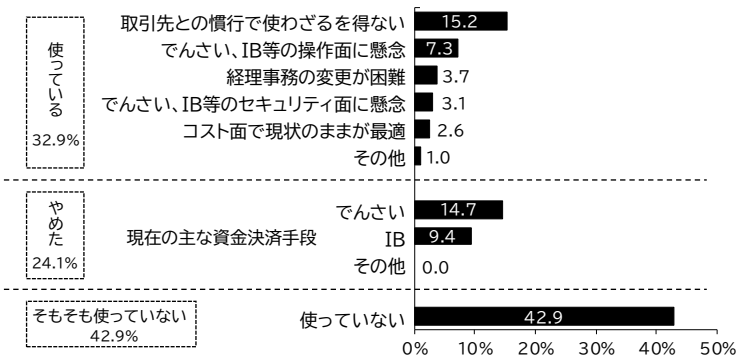
一方、3 年超の『長期』とする企業は「業況改善の見通しは立たない」とする回答と併せて 48.7%で前年度調査（45.6%）より 3.1 ポイントの増加となっている。



『短期』：「既に上向いている」「6 ヶ月以内」「1 年後」の和
『中期』：「2 年後」「3年後」の和
『長期』：「3 年超」「業況改善の見通しは立たない」の和

⑤紙の手形・小切手の利用状況と現在の決済手段

『紙の手形・小切手を使っている』との回答は全体の 32.9%で、その内訳は「取引先との慣行で使わざるを得ない」が 15.2%と最も高く、次いで「でんさい、IB 等の操作面に懸念」（7.3%）、「経理事務の変更が困難」（3.7%）と続いた。

一方、『紙の手形・小切手をやめた』は 24.1%で、現在の主な決済手段として「でんさい」が 14.7%で最も高く、次いで「IB」（9.4%）であった。「その他」は回答企業がなかった。

また、『そもそも使っていない』との回答は 42.9%と全体の 4 割超を占めた。